

S・M・C

Shizuoka Medical Communication

市民公開講演会

患者と医療者のより良いコミュニケーションをめざして！

～ 模擬患者を知っていますか？ ～

私たちが担っている模擬患者（SP）の役割について、市民の皆さまにどの程度理解してもらっているのだろうかと思うことがあります。活動依頼の増加に対応できるように会員を増やしたいと思っておりますが、そのためにはまずは模擬患者を知ってもらうことが肝心です。そこで今回は、私どもが発足当初からご指導いただいている岐阜大学医学部名誉教授の藤崎和彦氏に講演と演習をお願いしました。

まずは、「模擬患者が医療を変える」と題した講演から始まり、なぜ医療コミュニケーション教育が必要なのか、コミュニケーションスキルとはどのような技能なのか、SPが医療者教育に参加することの意義などについて学びました。会場は藤崎氏独特の話術に引き込まれ、時おり笑いに包まれて終始和やかな雰囲気でした。

演習では、市内の総合病院の研修医の先生お二人に協力していただき、思っていたよりも悪い検査結果であった患者さんと医師が今後の治療について話し合う場面設定で医療面接のロールプレイをしました。目的はSPの役割を見ていただくことでしたが、先生お二人とも患者に寄り添い親身に対応してくだ

さいました。

開催した2月8日は朝から寒く、講演会が終わる頃には静岡では珍しく雪が積もるほどに降っていました。参加者からは、「SPの役割の大切さを感じました」「“がっかり”の分かち合いが印象に残りました」「このような活動を知ることができて良かったです」などの感想を頂きました。

活動を始めて27年！これからも患者さんと医療者の架け橋になれるような活動を続けていきたいと思っています。

当会にご興味のある方は是非ともご連絡ください。

（鈴木崇代）



※SPとは・・・

SP（エスピー）は本物の患者と同様の演技ができるように訓練された人のことで、一般模擬患者：Simulated Patientと標準模擬患者：Standardized Patientに分類されます。一般模擬患者は学生や医療者の演習やトレーニングで研修者の相手をします。標準模擬患者は試験や評価（OSCEなど）に用いられます。

※OSCEとは・・・

客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examinationの略です。OSCE（オスキー）は、日本の医学部、歯学部、獣医学部、薬学部6年制課程の学生が臨床実習に進むために合格しなくてはならない試験の一つです。医学部では、臨床実習に出る前に行われる「臨床実習前OSCE」と臨床実習終了後に総合的臨床能力を評価する「臨床実習後OSCE」の2種類があります。

静岡市保健所主催 医療コミュニケーション研修会

【静岡県立総合病院】

医療安全対策室

医療コミュニケーション研修会に参加させていただき、コミュニケーションの難しさを実感するとともに人の「温かさ」を感じました。

今回の研修は、15分間の面会制限により、大切な家族と一緒に過ごす時間が少ないことに不満を持ち、病棟移動を希望する娘さんの事例でした。看護師には、病棟の「決まり事」があり、希望に添いたいけれどもできないもどかしさがありました。大勢の前でのロールプレイは緊張し、自分らしさを十分表現しきれなかったかも知れませんが、娘さんの言葉を聞きながら聞き「辛かったですね」「お父さんに会う時間を増やしたいですね」と娘さんの気持ちの代弁ができていたことに心から拍手を送りました。「病棟移動をする」という願いをかなえることはできませんが、娘さんが気持ちを語れるように問いかけ、医療者が寄り添うことで安心してもらえたと思います。

相手を思いやる気持ちで対応したことがすべてプラスになるとは限りません。人によって受け止め方が違うからです。しかし、相手の気持ちを知ろうとする姿勢は伝わり、何かしらの結果が得られると思います。患者家族の言葉と、言葉の奥に隠された想いを知り共感することを大切にしたいと思いました。

模擬患者を演じて

コミュニケーション研修会で初めて一般模擬患者を演じました。研修会のシナリオは、病院との事前打ち合わせの内容と過去のシナリオを参考にして作り、会のメンバーの力を借りて推敲を重ねていきました。そのかいがあって自分がイメージするシナリオになった気がします。演技の練習でもたくさんのアドバイスを頂き、入院患者の家族という人物像を作り上げようと努力しました。本番ではとても緊張しながらも、相手役の2人の看護師さんの患者家族に寄り添う姿勢に「なんて素晴らしい方たちだろう」と心の中で拍手をしていました。心配していた振り返りもサポート役の方からのフォローでどうにか無事に気持ちをまとめることができました。演じてみて一般模擬患者と標準模擬患者の違いが実感できました。またアンケートに“ペイシェントハラスメント”という言葉があり、医療従事者の方たちが日常的に患者さんとの関係に苦労されている様子を垣間見ることもできました。私にとっても医療関係者と患者の溝を埋めるコミュニケーションの大切さを感じた研修会でした。

(阿部)

ファシリテーターを経験して

静岡県立総合病院で行われた医療コミュニケーション研修会で、ファシリテーターデビューしました！！SMC発足当時から会にかかわってきましたが、その頃は将来自分がファシリテーターを務める時が来るとは夢にも思っていませんでした。研修会の数ヶ月前にデビューが決まっても、全く自信が無く、何とか断る理由を探して駄々をこねたり、先輩ファシリテーターに弱音を吐いたりしていました。本番が近付いてくると、「やっぱりやらないといけないか…」と、半ば諦めムードで覚悟を決めました。

ファシリテーターマニュアルで勉強し、会員の皆さんからご指導ご助言を頂き、9月のSMC研修会ではロールプレイを行い、少しずつイメージを掴んでいきました。自分なりのファシリテーターシナリオと、時間配分などを考えた進行表を作成し、1人でシミュレーションも行いました。それでも当日のセッションを見て、ファシリテーターとして上手くフィードバックが出来るか…が不安でした。SPとしてのフィードバックは何度も経験していますが、今回は研修者・SP・ファシリテーターの視点全てを感じとりながらフィードバックをしなければなりません。不器用な私にはとても難しい課題でした。当日は不思議と緊張はなかったものの、相変わらず不安でいっぱいでした。

「患者とのコミュニケーションにおけるチェックポイント」の解説に続いて、2つのセッションが始まりました。セッション中は、SPと研修者のやりとりをメモして客観視しながら、SPと研修者、両者の心の動きも感じとっていきました。セッション後、研修者の感想とSPのフィードバックを参考にしながら、私なりにファシリテーターの立場でフィードバックをしました。ねらいにそった研修者や見学者の学びになるようなフィードバックが出来たかは疑問です。

改善点だらけのファシリテーターデビューでしたが、何とか務めることが出来ました。これからも少しずつ成長していき、SMCの役に立ちたいと思っています。今回このような機会を頂き有難うございました。

(横山)



【山の上病院】

理学療法士 瀧戸 隼人

今回、研修会のロールプレイに参加させていただきました。当院は、回復期病棟では月に1回、療養病棟では3ヶ月に1回程度御家族と対面もしくは電話での面談を実施させていただいています。この面談は、主に患者様の普段の病棟での様子やリハビリの様子を御家族にお伝えできる貴重な時間だと感じております。その中でどのように伝えたら御家族に分かりやすく伝わるのか、納得した内容を伝えられるかを考え、面談に日々挑んでいます。

今回のロールプレイでは、患者家族の要望に上手く答えることができず、自分自身の意見を押し通してしまいました。普段、患者様や御家族が何を思い、何をこちら側に求めているのか、もう少し考えれば別の提案が出来たかもしれません。これからは自分自身の考えだけではなく、病棟や同僚にも意見を聞きながら面談の準備ができたらいと感じました。また、ロールプレイ後すぐにファシリテーターや患者家族役の方からのフィードバックを受けられるというとても貴重な経験も出来ました。言葉遣いや表情、対応の仕方等多くのことを学びました。今回の研修を今後の面談や患者様、御家族への対応にいかせるよう成長できたらと思います。



ファシリテーターを経験して

山の上病院で開催されたコミュニケーション研修会でファシリテーターとしてデビューしました。3か月ほど前から準備を開始し、先輩方から丁寧なご指導を受け、そして9月のSMC研修会では医療コミュニケーションの第一人者である藤崎和彦先生からも直接ご意見をいただきました。

研修会当日は進行シナリオを作成しタイムスケジュールも万全で臨んだはずだったのですが、ロールプレイ後のフィードバックに大変苦戦しました。ロールプレイに参加してくださった理学療法士のお二人や研修会に参加された皆さんに少しでもお役に立てるような内容をお伝えしたいと焦ってしまい、結局、十分なフィードバックになっていなかったのではないかと反省しきりです。今後さらに研鑽し、ファシリテーターとして自信を持って活動できるよう学びや経験を重ねていく覚悟です。引き続きご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。（佐久間）

【静岡市静岡医師会】

模擬患者を演じて

学生さんとの医療面接は経験していますが、今回、初めて経験豊富な医師とのセッションでSPを演じました。

今回のシナリオは、東京下町育ちで、生活習慣病を長年気ままにやり過ごしてきた患者さんが認知症の夫と共に娘のいる静岡市で暮らすために、新しい主治医と面談する場面です。

研修のねらいは患者さんに寄り添い現状を理解し、今後の治療方針や生活習慣を一緒に考えていくことでした。

医師役のお二人が緊張している様子が伝わり、私の緊張も加速しました。医師会との事前の打ち合わせで要望のあった患者カスタマーハラスメント対応を盛り込みながら、患者の性格から、頑固で気ままに生活したいという感じを前面に出しました。やりとりの中で、医師から検査結果の数字や専門医の紹介などの言葉が出て、次第に病気に対する不安が大きくなり焦りつつも、治療に向き合う気持ちの変化も表出していこうと思いました。

終了後に各セッションの良かった点や感じたことを短時間でまとめることには苦労しましたが、ファシリテーターやサポート役の方々に支援していただき、終わることができました。

また医療の中でお互いを理解するために必要なコミュニケーションスキルは、意思決定支援としても今後重要な課題になると感じました。SPを経験することで、私も貴重な学びの機会をいただきました。（白鳥）



試験前の緊張感



試験後の解放感



看護演習



笑顔も魅力の藤崎先生

令和7年度 SMCの活動

開催日	活動内容
令和7年5月18日 日	令和7年度総会
6月3日 火	聖隷クリストファー大学看護学部OSCE（看護学科2年）へのSP派遣
6月10日 火	標準模擬患者養成担当者認定更新講習会（リモート）
6月26日 木	聖隷クリストファー大学看護学部OSCE再試験へのSP派遣
6月26日 木	標準模擬患者養成担当者認定講習会（リモート）
7月5日 土	浜松医科大学医学部臨床実習後OSCE（医学科6年）へのSP派遣
8月2日 土	静岡県立大学「CRC/CRA養成講座」への講師・SP派遣
8月5日 火	静岡県立大学薬学部OSCEトライアルへのSP派遣
9月4日 木	SMC第27号発行
9月7日 日	SMC研修会
9月24日 水	静岡県立大学薬学部1年臨床薬学演習へのSP派遣
10月25日 土	浜松医科大学医学部臨床実習前OSCE（医学科4年）へのSP派遣
10月28日 火	保健所主催の研修会への講師・SP派遣（静岡県立総合病院）
10月29日 水	保健所主催の研修会への講師・SP派遣（静岡市静岡医師会）
11月13日 木	静岡家庭医養成プログラムOSCE へのSP派遣
11月13日 木	標準模擬患者養成担当者認定講習会（リモート）
11月18日 火	保健所主催の研修会への講師・SP派遣（山の上病院）
12月6日 土	静岡県立大学薬学部OSCE（薬学部4年）へのSP派遣
12月16日 火	静岡市立清水看護専門学校看護技術の統合講座（看護学科3年）へのSP派遣
12月16日 火	静岡県中部看護専門学校OSCE（看護学科3年）へのSP派遣
12月25日 木	静岡家庭医養成プログラム医療面接の復習へのSP派遣
令和8年2月8日 日	SMC主催 市民公開講演会 講師：藤崎和彦氏 演題：患者と医療者のより良いコミュニケーションをめざして
2月17日 火	静岡市立静岡病院パートナーシップ講演会への講師・SP派遣 演題：患者の意思決定支援のポイント
2月27日 金	医学生共用試験OSCE模擬患者団体向け全国説明会（リモート）
3月28日 土	標準模擬患者認定試験受験（東京）
月1回 日	定例会（静岡市中央福祉センター）

SMC研修会

9月7日に岐阜大学の藤崎和彦先生を講師にお招きして研修会が開催されました。私にとっては7月に入会して初めての研修会でした。

まずは「SPとファシリテーターの役割」という題でコミュニケーション教育の必要性和実践する上でのポイントをご講義いただきました。

講義に引き続いて、今後実施予定の研修会に向けて3つのセッションを行い、シナリオ、SP、ファシリテーターについて具体的にご指導いただきました。SPとスタッフ役はセッションで一期一会のやり取りをするので、会話の流れは本番にならないとわかりません。ギャラリーにとっても実りあるものにするためには、シナリオとSPが目的にかなうものとなるよう入念な準備が必要であることがよくわかりました。特にフィードバックを行うファシリテーターは、力量が求められる重要な役割です。今回、自分なりの逐語録（トランスクリプト）を取りながら聴講させていただきましたが、会話の流れを追う

のが精一杯で、フィードバックすべき点を見いだすまでには至りませんでした。

また、この研修で特に難しそうだと感じたことは、「がっかりの分かち合い」でした。相手にとって悪い情報（Bad News）を伝える際には、しっかりとがっかりするプロセスが大切になります。今回のセッションの中には共感とねぎらいまでで終わってしまい、がっかりの分かち合いまでいかなかったものがありました。

コミュニケーションはスキルであり訓練が必要です。「相手の気を悪くしない」ことに捕らわれないこと、「今の状態の方がまだまし」と安易に励まさないことなど、意識するだけで違うことも学ぶことができました。

SMCメンバーは学びの場を提供するために、自分たちも訓練を重ねています。私もお役にたてるようチャレンジしていきたいと思いました。

（南）

【連絡先】 静岡医療コミュニケーション研究会（標準模擬患者養成団体） 代表 鈴木 崇代
〒420-0961 静岡市葵区北 3-29-27 TEL 070-1687-2466 E-mail: smc1999sp@gmail.com
SMC ホームページ URL <http://www.smc-jp.com/>